河川を基軸とした生態系ネットワークの形成に向けた取組の実効性向上のあり方について
提言(案)概要

資料4

本提言の概要

○河川を基軸とした生態系ネットワークの形成を通じて、流域環境の保全・再生・創出を一層加速させることを目的として、生態系ネットワークの捉え方、生態系ネットワークとグリーンインフラの関係性、流域全体で共有する目標設定の考え方及び多様な主体の連携方策について検討を行った。本提言は、その成果として、各流域における河川を基軸とした生態系ネットワーク形成に向けた取組の実効性を高め、ネイチャーポジティブの実現、さらにはウェルビーイング向上に資する流域づくりを推進するための基本的な方向性を示すものである。

河川を基軸とした生態系ネットワークの基本的な捉え方

(1)**対象範囲** ： 森・里・川・海のつながりを重視し、河川区域や行政界を超えた流域圏全体を対象とする。
(2)**構成要素** ： 生態系ネットワークはコア・バッファ・コリドーの要素で構成される。
(3)**機能の視点** ： 生物の移動に加え、水・物質循環や土砂動態も考慮する。
(4)**類型別分析** ： 縦断・横断・垂直・流域内・流域をまたぐ・川と人々とのつながりの6類型で分析・評価する。
(5)**指標種の考え方** ： 類型別の生態系ネットワークや流域特性を反映する指標種を把握する。
(6)**その他** ： 水・物質循環、土砂動態と生息場との関係性、時間軸の視点、連結性向上の注意点。

グリーンインフラの見える化と保全・創出を通じた生態系ネットワークの形成

(1)**グリーンインフラの定義** ： 「グリーンインフラ推進戦略2030」における定義に基づく。
(2)**生態系ネットワークとグリーンインフラとの関係性** ： 「生態系ネットワークを形成するグリーンインフラの保全・創出」を軸として、「生態系ネットワークを回復・強化するインフラの整備」、「グリーンインフラの保全、維持管理や利活用を促すソフト施策」を併せて進めることで生態系ネットワークを形成すべき。
(3)**河川・流域におけるグリーンインフラの多様な効果** ： 河川・流域におけるグリーンインフラは、生物の生息基盤、水資源保全、雨水・流水の貯留・浸透、文化・経済的基盤などの多様な効果を発揮することについて留意することが重要。
(4)**グリーンインフラの見える化** ： 流域の生態系ネットワークやグリーンインフラ等を見える化し、その現況や課題について、流域環境の保全・創出に参加する流域関係者全体で認識を共有すべき。

流域目標設定の考え方

(1)**河川を基軸とした生態系ネットワーク形成上のポイント** ： 生息場を量・質ともに確保し、生息場同士をつなぐとともに、ネットワーク全体の効果を高める。
(2)**目標設定の立て方のエッセンス** ： 現状と課題の把握、多様な効果の整理、流域で共有できるストーリー構築、目標の設定・共有。

関係者連携の考え方

○流域の多様な主体が生態系ネットワークの現状や課題、目標像等を共有し、互いの役割や価値を共有しながら連携を進めることにより、取組の実効性を高めていくべき。

今後の知見の充実が望まれる事項

○「水・物質循環及び土砂動態の考慮」、「時間軸・気候変動を踏まえた管理」、「データ整備・利活用の推進」、「バッファ機能に関する知見の充実」、「多様な主体との連携強化」、「トレードオフの考慮」等